

病院のお仕事いろいろ

その1 がん患者さんのQOL(生活の質)向上を目指して、専門知識を活かしたサポート

がん看護専門看護師

三木 幸代(みき ゆきよ) 看護師長

がん看護専門看護師は、複雑な問題を抱えるがん患者さんやご家族の体やこころの苦痛を理解し、質の高い看護を提供するための専門的な知識や技術を備えたがん看護のスペシャリストです。がん治療では、安全に高度な医療を提供するだけでなく、多くの治療の選択肢の中から、その患者さんにとって最善と考えられる治療を、患者さんご自身が納得して受けられることがとても重要になります。三木看護師長は、身につけた専門知識を活かして、患者さんが治療を選択する際のサポートや、他の医療スタッフとのコーディネート、院内外におけるがん看護に関する教育活動も行っています。がん看護専門看護師の受験資格の一つとして、大学院の修士課程を修了することが要件となっています。三木看護師長は本大学院保健科学教育部の「がん看護専門看護師コース」で、社会人大学院生として3年間がん看護に関する専門的知識や実践能力を身につけました。「大学院で学んだことを、臨床の現場で活かすことで、より複雑な問題に直面している患者さんの問題解決や適切なサポートにつなげることができると日々実感しています。」(三木看護師長)最後に、すべての患者さん

のQOL(生活の質)の視点に立って水準の高い看護をこれからも提供していきたい。また、後輩にもがん看護のプロフェッショナルを目指して、続々とチャレンジしてもらえたらと語ってくれました。



その2 血管撮影のスペシャリスト

診療放射線技師

坂東良太(ばんどう りょうた) 技師

診療放射線技師は、医師の指示の下で放射線を用いて検査や治療を行う仕事です。健康診断などで撮影されるレントゲン検査だけでなくCT検査やMRI検査、核医学検査から放射線治療まで多岐にわたっており、医療の現場になくはない存在です。坂東技師は現在、血管造影検査を担当しています。血管造影検査とは、その名の通り血管を撮影する検査です。細かな血管の状態や血液の流れを調べるために、カテーテルという細い管を目的の血管まで通し、造影剤を流して撮影を行います。特徴として、MRI検査やCT検査では分からない細かな箇所まで撮影が可能で、先端が風船状となっているバルーンカテーテルを血管の内部で膨らまし血管を広げる等、手術に比べ低侵襲で治療が可能で挙げられますが、合併症や血管を傷つける可能性もあり、不安を抱えて検査に臨まれる患者さんが多くいます。そのため、「安心して検査を受けて頂けるよう、検査内容を丁寧に説明すること」を心がけているそうです。365日緊急呼び出し体制で夜間、休日関係なく必要があれば血管撮影室で検査や治療を行うことは大変ですが、脳梗塞や心筋梗塞などの検査や治療を受けた患者さんが良くなっていく様子を見ると、救命

医療の一端を担っているやりがいを実感するとのこと。最後に知識や技術の向上のため専門技師の資格取得し、臨床だけでなく研究に対しても努力していきたいと語ってくれました。

